

(別紙様式2)

「さつまいも産地づくりによる地域振興について」

塩谷南那須農業振興事務所経営普及部

塩谷南那須地域の地域戦略 「収益性の高い魅力ある水田農業の展開」

県実施方針の重点取組事項 「強みを伸ばす」

1 取組の背景・ねらい

塩谷南那須地域は、水稻栽培を中心とした土地利用型農業が盛んな地域であり、水田を有効活用した土地利用型園芸（露地野菜）の推進を行ってきました。さつまいもは、栽培管理の労力が比較的少なく、また管内に干し芋加工を行う業者があり実需者に近い産地であることから、重点推進品目の1つとして選定しました。平成30年度から作付推進し、一定の作付拡大が進んだことから、令和5年度に市町や生産組織、加工業者と協議して、さつまいも躍進戦略（5か年計画）を策定しました。

本戦略に基づき、生産振興・担い手確保・地域振興の3つの視点から、多収栽培技術の確立や新規栽培者の確保、地域内の利用拡大等に取り組みました。

目標項目	R2実績	R6実績	R7目標
さつまいも栽培面積 (ha)	8.4	36.2	50.0
さつまいも単収 (t/10a)	1.1	1.1	2.2

(参考) R7 実績：栽培面積 37.8ha、単収 1.7t/10a

2 活動対象

JA しおのやさくらさつま芋部会 33 戸、JA なす南契約さつまいも生産者 6 戸、矢板さつまいも組合 8 戸、しおや露地野菜研究会 2 戸、個人生産者 2 戸、管内 6 市町、管内加工業者 2 社

3 活動の内容

(1) 指導・支援の体制

農業振興事務所（経営普及部）：土地利用型生産者への作付推進、講習会や展示ほ設置による技術支援、補助事業による振興支援、企画振興部と連携した地域振興支援

JA：各部会に対する支援、講習会やほ場見学会の開催

市町：ブランド認定、補助事業等による振興支援

(2) 活動経過

① 生産振興

さくらさつま芋部会の3割の生産者が無施肥で栽培し、平均単収は 1.1t/10a に留まっていた（全国平均 2.2t/10a）。そこで、施肥効果を実証するため、3水準の施肥試験区（無肥料、茨城県の基準施肥



写真1 展示ほの様子

量の5割、茨城県と同量)の展示ほを令和6年度に設置し、収量比較を行いました。また、品質低下要因の1つであるコガネムシによる食害を防ぐため、薬剤防除に関する展示ほも設置し、現地検討会や栽培講習会などを通じて生産者に結果周知を行い、肥培管理や害虫防除の重要性について指導しました。

② 担い手確保

水田における主食用米とさつまいも栽培の労力や収益性などを比較した資料を作成し、土地利用型生産者に対して会議等で周知し、新規作付を推進しました。また、栽培期間内で労力が集中する収穫時期に、作業負担の改善が期待できる機械の実演会を開催することで、省力化のイメージを持ってもらうよう工夫しました。



写真2 機械実演会の様子

③ 地域振興

販売まで見通した振興を図る観点から、歩留まりなどの品質に関する情報を加工業者と共有し、生産者にフィードバックすることで、実需者が求める品質の芋の生産を目指しました。また、さつまいもの地域ブランド化を図るため、市町と連携して地元菓子店等の商品開発を支援し、さつまいもの新規取扱先の確保に努めました。併せて、地元のさくら清修高校にPRキャラクターデザインを依頼し、干し芋イベントで地元のさつまいもをPRしました。



4 活動の成果

(1) 生産振興

施肥量の展示ほでは、基準量5割区で無肥料区に対して1.4倍の収量が得られました。また、薬剤防除の展示ほでは、コガネムシの防除対策が芋の品質向上に有効であることが確認されました。これらの結果をもとにさつまいもの栽培資料を作成し、7年産に向けた栽培指導を行いました。

(2) 担い手確保

土地利用型生産者に推進資料をもとに新規作付を働きかけるとともに、ほ場見学会で新規栽培希望者に周知した結果、令和3年度から令和6年度にかけて、さつまいも生産者数は24戸から52戸に、栽培面積は24.0haから36.2haに増加しました。また機械導入などの省力化を推進した結果、3ha以上の大規模経営体数は同期間中に1戸から3戸に増加しました。

(3) 地域振興

生産者と芋の品質等の情報を共有し、定植前の薬剤防除や適期防除を行ったことで、干し芋時の歩留まりは令和3年度から令和6年度にかけて20%から24%に向上しました。また、加工業者への原料供給量は33tから86tに増加、受入れ原料に占める地元供給割合は

23%から 33%に増加しました。さらに、市町認定ブランド商品数は、同期間中に 2 商品から 5 商品に増加しました。

5 今後の対応策

(1) 生産振興

栽培講習会等を通じて施肥効果を生産者に伝えてきましたが、一部生産者への理解浸透は進んでいません。JA とも連携して施肥の実施に力を入れるとともに、栽培マニュアルの作成や優良事例の周知共有などを行います。また病害虫防除についても同様に産地への実施浸透を図り、単収 2.5t、加工歩留まり 30%の目標実現に向けて、引き続き取り組んでいきます。

(2) 担い手確保

新規栽培を開始したものの数年でやめる人もいることから、まずは単収を上げて収益が確保できるよう栽培指導を徹底し、生産者数を確保します。規模拡大を検討する生産者に対しては雇用の検討や機械化一貫体系の導入など作業の効率化を図りながら、個々の経営規模と産地の栽培面積の拡大を目指します。

(3) 地域振興

更なる地域ブランド化を図るために市町、地元菓子店等と連携してスイーツマップを作成し、道の駅等でのPRと地元での消費拡大を進めます。

また、加工業者への原料供給に占める地元供給割合をさらに高めていけるよう、業者との連携を図りながら生産拡大と品質向上を進めていきます。